学校番号	1201

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校 改訂版 日本史Ａ　人・くらし・未来」（第一学習社）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

日本史Ａでは、日本が世界と深いかかわりを持つようになっていく時代を学びます。日本単独の歴史として見るのでなく、世界史と関連付けて考察する中で、「他国から見た自国」の観点にも触れていきます。また、歴史上の出来事や、人々の選択・生活を学習する事で、自らの判断基準を作り上げることにも繋げてください。
近現代史を学ぶ事で現代社会が成り立つ過程を知り、自分たちの生きる社会についての理解を深めると同時に、自分たちがどのように生きていくかを考える材料にしてください。

2　学習の到達目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体者としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に追究するとともに，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだし，我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を，世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し，国際社会の変化を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し，その知識を身に付けている。
評価方法	授業態度 ワークシート レポート 観察・発表 定期考査	確認テスト ワークシート レポート 観察・発表 定期考査	確認テスト ワークシート レポート 観察・発表 定期考査	確認テスト ワークシート レポート 観察・発表 定期考査
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。考査は年５回実施します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	近代国家の形成と国際関係の推移	第２部　第１章 近代国家の形成と国際関係の推移 第１節　近代への胎動 ①せまってくる外国船 ②ちからを蓄える庶民 ③近代思想のいぶき ④幕府の動揺	○			○	a:幕末における日本を取り巻く状況について、我々の暮らす日本へとつながる、歴史の転換点として捉える事ができる。 d:世界史 A での学習を踏まえ、鎖国政策による江戸時代の日本の対外関係と、それによって生まれた国内の文化や産業について理解することができる。	授業態度 レポート ワークシート ノート提出 発問評価 定期考査
		第 2 節　開国と幕末の動乱 ①黒船がやってきた ②志士たちの時代 ③手を結ぶ薩長 ④近代との出会い ⑤江戸幕府が終わり新政府へ	○			○	a:欧米列強からの圧力を受けて、幕末時の外交における判断の理由を、尊皇攘夷派による各種活動とあわせて考えることができる。 d:幕末期の幕府政治の方針と、討幕へむけての雄藩の動きを理解することが出来る。	授業態度 確認テスト ワークシート レポート 観察・発表
		①江戸が東京になった ②天皇の軍隊がつくられた ③スローガンは「富国強兵」 ④欧米文化がはいってきた ⑤日本の国境が定まった ⑥爆発する農民や士族の不満	○	○		○	a:明治時代における社会の変化を現代社会の基礎として捉え、共通点と相違点を考える事ができる。 b:明治時代の産業の変化と発達を、画像史料などを元に考察し、言語で表現できる d:明治時代の社会の変化と、近代化の進行について、その過程を理解する事ができる。	授業態度 確認テスト ワークシート レポート 観察・発表 定期考査

		⑦国会開設が決まった ⑧地主制が進行した ⑨立憲政治がはじまった ⑩国会がはじめて開かれた	○	○		○	a:日本における議会の開設を、現代につながる要素として意欲的に学習へ向かう姿勢を持つ。 b:選挙制度に関する歴史的背景を知り、自分たちの持つ権利がどのようにして得られたかについて考える事ができる。 d:日本における近代化の一環として、議会の開設に向けての国内の動きと憲法制定へ向けての動きを理解する。	授業態度 レポート ワークシート ノート提出 発問評価 定期考査
		①欧米と肩を並べる国をめざして ②清国との対立が深まった ③藩閥と政党が接近した ④ロシアとの戦争がおこった	○			○	a:明治後期の外交政策と方針について、意欲的に学習する事ができる。 d:欧米との不平等条約改正と一連の戦争結果によって、日本が世界でどのような立場を得たかを理解している。	授業態度 確認テスト ワークシート レポート 観察・発表
		⑤アジアへの勢力拡大がはじまる ⑥国民の生活が圧迫された ⑦綿糸と生糸が支えた産業革命 ⑧欧米の資本主義に仲間入りした ⑨貧富の差が広がった ⑩国家主義が台頭する ⑪教育が進展した ⑫明治の文化が花開いた	○		○	○	a:日露戦争後の日本が、世界の中でどのような立ち位置になったかを積極的に学ぶ姿勢を持つ。 c:明治の文化や人々の考え方について、人物史や作品を通じて理解し、資料としてまとめる事ができる。 d:日露戦争後の国際関係と、日本の産業・文化がどのように発展していったのかを理解している。	業態度 レポート ワークシート ノート提出 発問評価 定期考査

2	国際関係の推移と近代産業の発展	第１節　第一次世界大戦と日本 ①民衆が政治を動かしはじめた ②最初の世界大戦に日本も参戦した ③成金の時代がやってきた ④朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ⑤日本は欧米に歩調をあわせた ⑥「平民宰相」が登場した ⑦抑圧からの解放をもとめて ⑧新しい文化とモダンな都市が生まれた ⑨学問と芸術に新風が吹く	○	○		○	a:第一次世界大戦を通じて、世界と日本の関わり方がどのように変化したかを積極的に学ぶ姿勢を持てる。 b:日本における普通選挙権獲得の過程と、同時に行われた弾圧について、その理由と内容を説明できる。 d:第一次世界大戦前後の国際関係と、大正デモクラシーが日本の政治に与えた影響を理解している。	確認テスト ワークシート レポート 観察・発表
		第２節　第二次世界大戦と日本 ①恐慌の嵐が吹きあれる ②日本の外交が行きづまる ③軍部の暴走がはじまった ④中国との長い戦いがはじまった ⑤戦争の影が文化におよぶ ⑥すべてが戦争に協力させられた ⑦アメリカとの戦争がはじまった ⑧戦争が拡大する ⑨アジア・太平洋の諸民族にかかわった ⑩生活も戦争に染まった ⑪戦争が終わった	○			○	a:普通選挙を通じてから全体主義へ至り、戦争の始まりへと至る過程を現実のものとして受け止め、選挙のよる国政参加の意義や、平和について考えることに活用する姿勢を持つ。 d:戦争に伴う日本国内の政治方針や国民生活の変化と、外交方針の変化により第二次世界大戦へと至る過程を理解している。	確認テスト ワークシート レポート 観察・発表

		第３節　日本の再出発 ①占領軍がやってきた ②日本が生まれかわる ③新しい国のしくみ ④飢えとのたたかい ⑤飢えのなかでも解放感があった ⑥民主化から経済復興へ ⑦復興への転機到来 ⑧複雑な環境のなかでの独立				○	d:第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策，民主化の諸改革の内容について理解する。 d:日本国憲法について，その制定までの過程や内容の特徴を理解する。 d:戦後の深刻な国民生活の実態について理解する。・敗戦後の国民生活について，食料不足などの危機的状況にあったことを理解する。一方で，アメリカ文化をはじめとするあらたな文化的動向についても理解する。 d:日本の経済復興の過程を理解する。 d:国際的な冷戦のはじまりと，日本に対する占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約の締結に至る経緯と背景について，理解する。	確認テスト ワークシート レポート 観察・発表

	両大戦をめぐる国際情勢	第３節　現代の日本と世界 ①２つのショック ②経済大国が誕生した ③消費はファッションになった ④バブルはこうしてふくらんだ ⑤大きな歴史の転換をむかえた ⑥政局と経済が混迷する ⑦これからの日本について考えよう ⑧時代の転換点に立って	○	○		○	ad 石油危機にともなう日本国内の動きを，国際情勢の動向をふまえて，理解する。 ab1970 年代以降の消費生活の変化，その背景としての家族形態の変化について理解する。 ab 国際的な冷戦の終結後の世界情勢と，国内的な 55 年体制の崩壊について理解する。 d 現在の日本がかかえる諸課題について，国際社会での役割，国内的な問題という面から理解する。 d1990 年代以降の国民生活については，経済的背景としての雇用状況の変化，また，ネットワークの発展が大きなキーワードであることを理解する。	確認テスト ワークシート レポート 観察・発表

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。